

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月19日
札幌市立新琴似北中学校

1 学校教育推進の最重点項目

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 全ての生徒にとって「通いたい学校」「安心して通える学校」の創造 (2) 健やかな「からだところ」の育成 (3) 小中一貫、地域連携の広がり と 深化を図る |
|---|

2 本年度の重点目標

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 小中一貫した教育の充実とコミュニティ・スクールの導入に向けた準備 (2) 共感的理解、共通理解に立った指導・支援と情報の共有 (3) 生徒の自主的・実践的態度を育成し、自己存在感・自己肯定感を得ることのできる活動の一層の充実 (4) 基本的な生活習慣・学習習慣の確立 (5) 計画的かつ調和と統一感のある教育課程の編成・実施 (6) 特別な支援を要する生徒へのきめ細やかな対応 (7) 学校からの積極的な情報発信 (8) 明るく清潔で潤いのある学校環境の整備、個人情報 の適切な取扱い (9) 適正な予算執行と効率的な事務処理の推進 (10) 働き方改革と各種業務の効率化、合理化を目指した試行・実践 |
|---|

3 本年度の経営方針

- | |
|---|
| <p>—愛して、教えて、支えて、育てる—</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 「魅力ある授業」を創造し、学ぶ喜びを体感する。 (2) 「豊かな心」を育てるため、様々な教育活動を充実させる。 (3) 変化を前向きに受け止め、探究心をもちつつ自主的に学んでいく。 |
|---|

4 自己評価結果（達成状況 A:適切である B:ほぼ適切である C:適切でない）

※学校関係者評価の記号 a:適切である b:どちらともいえない c:適切でない

	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 1 「分かる授業」「魅力ある授業」の創造 2 よく学ぶ生徒の育成 3 ICTを活用した授業の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1 道徳も含め、授業が分かりやすいと感じている生徒が全学年8割を超えている。引き続き基礎学力の定着と学ぶ力の育成を重視した授業の工夫・改善を行っていききたい。 2 授業の中で協働的な学びの場面と合わせて、個別最適な学びの場を設定するなどして、生徒が自ら学びを進めていく方法を習得させていききたい。そして、自ら進んで学習に取り組む生徒を更に育成したい。 3 授業の中で端末を使いながら学習することは、理解に役立つと感じている生徒が全学年9割以上いる。今後も生徒同士の意見交流や視覚に訴える教材の提示、調べ学習等での活用を推進していききたい。そのために、教師のスキルアップも研修会等を通して図りたい。 	a	a
学校関係者評価者による意見		全員が同じように理解できる授業はどんな工夫があっても難しいと考えるので、工夫があることが大事。生徒の自発性は3年間の積み重ねがあっても結果はすぐに出ないだろう。かなり後に期待するものである。			

(様式2)

生徒指導	1 生徒の側に立った心に響く生徒指導 2 基本的な生活習慣の確立と自立心・規範意識の育成 3 適切な生徒指導と落ち着いた学校生活指導	A	1 生徒は全学年8割以上が教師は生徒の理解に努めていると評価しているが、保護者は学年による差が見られる。引き続き相談活動等を通して生徒理解に努めるとともに、今まで以上に保護者との連携に努めていきたい。 2 生徒は全学年の9割以上が生活のきまりを意識し、マナーを意識して生活していると評価している。引き続き規範意識をもたせつつ、自立心も育てていきたい。 3 生徒の7割以上が学校・学級に安心・安全に落ち着いて生活できる雰囲気があると評価している。しかし、7割未満の学年もあるため、学年による差をなくすように努めていきたい。	a	a
学校関係者評価者による意見		保護者との連携は個人情報の保護や守秘義務など難しい面もあると思われる。努力を評価したい。			
給食・美化・生徒会指導	1 給食を通じた健康の保持推進 2 安全安心な環境づくりと環境美化推進 3 協力性・自主性・責任感の育成 4 所属感や連帯感を育む日常活動・文化的環境整備	A	1 給食をはじめ、食に関する関心の高さが見られる。親学校の栄養教諭の協力のもと、ランチルーム給食や掲示物等で食育を更に推進していきたい。 2 老朽化が進み、修繕・故障が頻繁にある。用務員を中心に設備の安全を保っている。清掃も行き届いている。生徒たちの環境美化に対する意識は高い。 3 学校祭は昨年度に引き続き、生徒それぞれが役割を果たし、温かい雰囲気の中にも盛り上がりのある行事となった。引き続き生徒会活動の工夫を図りながら、生徒にとって自己存在感・自己肯定感が高まる取組を行っていきたい。 4 今後も生徒に目的意識をもたせながら活動させつつ、学年間の連携を密にして、相互交流の中からもより良い活動となるよう指導・支援していきたい。学校司書による図書館運営の充実が図られている。文化環境の向上を目指した活動を更に活性化させたい。	a	a
学校関係者評価者による意見		ランチルーム給食交流や学校祭・体育大会など、生徒のアットからも友達との関係を深められたとあった。学校だからこそできる社会教育と考える。積極的な取組も良かった。			
特別支援	1 要配慮生徒や特別支援学級指導の理解と推進	A	1 特別支援コーディネーターを中心とした校内学びの支援委員会の組織構築に努め、困り感を抱えている生徒一人ひとりへの対応の充実を図った。今後も生徒の実態把握に努め、適切な指導や支援を行っていきたい。スクールカウンセラーや関係機関との連携、情報共有を更に充実させたい。 特別支援学級では実態把握に努めながら、個に応じた適切な支援ができた。今後も引き続き、家庭・地域との連携を密にとりながら、必要な指導・支援を行っていきたい。	a	a
学校関係者評価者による意見		障がいのある生徒を特別視しないという点から通常学級へというようにはまだならないだろう。お互いの個性を認めるのは生徒もだが、保護者にも必要である。			
信頼される学校づくり	1 開かれた学校づくり 2 生徒及び保護者意見の尊重 3 円滑なPTA活動・部活動の推進	B	1 学校ホームページやすぐる、学校だより等を活用し、日常の学校の様子を配信していく方針を継続していく。また、今年度実施した学校公開日等、保護者が来校し学校の様子を見ていただく機会も引き続き設定していきたい。 2 生徒は9割程度、保護者は7割程度が肯定的に評価している。生徒・保護者の意見に目を向ける姿勢を今後ももち続け、更に信頼度を高めるように努めたい。 3 PTA活動については、今年度より規約を改正し、実態に即して活動を精選した。部活動では、ガイドラインを遵守しながらも、生徒の活動を保障できるような活動を進めていきたい。	a	a
学校関係者評価者による意見		ホームページを見ることがあまりなかったが、学校からの印刷物など働きかけは良いと思う。			
危機管理	1 適切な安全教育や避難訓練の実施	A	1 教職員の研修も含めて、今後も安全教育を徹底していく。地震、災害などの対策を特に留意し、取り組んでいきたい。年間2回を予定している避難訓練も引き続き実施していきたい。	a	a
学校関係者評価者による意見		災害に対しての訓練も大事だが、日常の登下校時の危険にも注意がいると思う。			